

# 真室川町地域新エネルギービジョン

## 【目的】

真室川町は、町域の8割以上を占める森林を抱え、古くから森林資源の生産・加工地としての役割を担ってきました。しかし、現在では自然資源の利用や自然とのかかわりが薄れてきており、石油化学製品に依存する生活に変化してきています。

そのような状況の中、平成13年3月に策定した「第4次真室川町総合計画」において、「人と自然と文化が共生し、やさしさ・美しさ・安心を共有する町」を将来像に掲げ、人と自然を重視したやさしいまちづくりに取り組む方向性を打ち出しています。

以上のことをふまえて、

**化石燃料の消費削減による「地球温暖化防止」**

**町内のエネルギー資源を十分に活かすことによる「循環型社会の形成」**

**町内でのエネルギー自給体制の確立による「エネルギー安全保障」**

**農林業等の町内の産業と密接に連携した新エネルギーの利用による「地域の活性化」**

を基本視点として、町内に導入可能な新エネルギーとその具体的な導入方向の指針を策定し、化石燃料に依存しないエネルギー自給を目指すことを目的としています。

## 【新エネルギーとは】

「新エネルギー」とは、一般的には「技術的に実用段階に達しつつあるが、経済性の面での制約から普及が十分でないもので、石油代替エネルギーの導入を図るために特に必要なもの」と定義されており、これに基づけば、次のようなものが該当します。

**自然の中に存在し、いくら使ってもなくなる（再生利用可能な）エネルギーで、今まであまり使われてこなかったもの。**

**今まではごみ等として捨てられてきた、あるいはエネルギーとして利用されていなかったもの  
新しいアイデアや技術によって、今までにない形で利用されるようになったエネルギー**

## 【代表的な新エネルギー】

### 太陽光発電

太陽の光を、直接、電気エネルギーに変えるのが「太陽光発電」です。太陽電池に光が当たると、電気が発生します。太陽光発電は、有害物質を排出しないうえ、太陽の日が当たるところならどこでも発電することができます。また、屋根や屋上などのスペースを有効に利用することができます。

真室川町では、夏季を中心に冷房に利用できるほか、使わずに余った電力は売ることができます。



### 太陽熱利用

太陽の日差しの暖かさを利用したものが「太陽熱利用」です。太陽の熱エネルギーを利用して、給湯や床暖房、冷暖房等が可能になります。

真室川町では、融雪機能付きの機器を設置することにより、年間を通しての利用が可能です。

## 雪氷熱利用

雪や氷の冷たい熱エネルギーを冷房や農作物の冷蔵に利用するのが「雪氷熱利用」です。

真室川町は積雪量が多いことから、冷房需要の大きい公共施設への導入や農作物の低温貯蔵、栽培抑制による出荷調整・差別化に利用することが期待されます。



## バイオマスエネルギー

植物などの生物体（バイオマス）は有機物で構成されているため、燃料として利用できます。具体的には、森林資源から得られる薪、木炭、チップ、ペレットなどの固体燃料のほか、アルコール発酵・光合成などから得られる液体燃料、家畜の排泄物などのメタン発酵から得られる気体燃料があります。

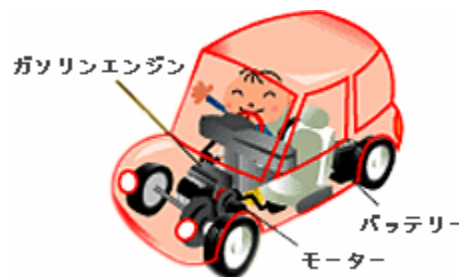
町の面積の9割近くを森林が占める真室川町では、特に「バイオマスエネルギー」の利用が期待されます。



## クリーンエネルギー自動車

クリーンエネルギー自動車は、排気ガスを全く出さない電気自動車、ガソリンエンジンと電気モーターの組み合わせで低燃費のハイブリット自動車、炭素や有害物質の少ない燃料を使う天然ガス自動車やメタノール自動車などがあります。

車が普及している真室川町でも、すぐにも導入が可能な新エネルギーです。



ハイブリット自動車

## 重点的に取り組んでいく3つのプロジェクト

新エネルギービジョンでは、地域経済・環境への波及効果が期待できるもの、緊急性が高いもの、実証実験が必要なもの、町ならではの取り組みとなるものなど、重点的に取り組むことが望ましいプロジェクト3つを選定しています。

### 公共施設率先導入プロジェクト

庁内推進組織の設置

庁内に「(仮)新エネルギー導入推進会議」を設置し、今後5ヵ年間のうちに新・改築が予定される公共施設を対象として、新エネルギー設備の導入を検討します。

公共施設への導入

上記の「(仮)新エネルギー導入推進会議」の検討を踏まえて、真室川町保育所や町営住宅、役場庁舎、町内各小中学校、町民や来訪者の利用頻度の高い施設(梅里苑や総合体育館)などの公共施設に順次、太陽熱利用・太陽光発電・雪冷房・木質バイオマス等の新エネルギー設備を導入していきます。

### 木質バイオマス利用促進プロジェクト

地域熱供給事業の検討

町内で発生する木質バイオマスを地域で活用した熱供給事業(温水等の熱媒体を導管を用いて一般家庭等の需要先に販売する事業)を実現化するために必要な各種調査・検討を行います。

## 薪ストーブの普及

新たに組織化する「(仮)薪ストーブ支援隊」を中心に、一般家庭へのストーブの普及、薪の供給さらには森林管理とあわせた町内森林からの薪の生産等に必要な取り組みを展開していきます。

## 新エネルギー普及促進プロジェクト

### 一般家庭への新エネルギーの普及

町民や事業者に対して、広報やホームページを通じて、省エネルギーの取り組み方法や新エネルギーの内容・導入方法・導入による効果、導入にあたっての支援措置、町の率先的プロジェクトについての情報を積極的に発信していきます。また、町民や事業者が新エネルギーを導入する際の技術的支援や補助金などの財政的支援を検討します。

### 「省エネ・かんきょうスクール」の開催

町内の各小中学校において、総合的な学習の時間などを活用し、地球環境問題やエネルギー問題・新エネルギー・省エネルギーに関する取り組みを展開していきます。

### 農作物貯蔵施設への雪氷冷熱の導入

特別豪雪地帯であり、雪は無尽蔵かつ安定的に得ることができる本町の特性を活かして、雪をエネルギー源とした簡易な農作物の保冷設備を整備し、少ない投資で効果を目指すモデルの実証実験を行います。